

豊島区有形文化財の「鈴木信太郎記念館」が本日 28 日オープン！

～フランス文学者 鈴木信太郎の旧宅を公開～

本日、豊島区指定有形文化財である旧鈴木家住宅が、整備・改修を終え「鈴木信太郎記念館」として開館した。それに先駆け、昨日 27 日(火)には、関係者によるオープニングセレモニーが行われた。

鈴木信太郎氏(1895 年-1970 年)は、日本のフランス文学研究の黎明期に活躍したフランス文学者だ。東京大学にて 1921 年より 20 年以上にわたってフランス文学を講じ、日本におけるフランス文学・語学の研究体制を確立させるとともに、門下から多くの研究者を輩出。特に、フランス近代の象徴派詩人ステファヌ・マラルメや、フランソワ・ヴィヨンを中心とした中世文学の研究において功績を残した。

旧鈴木家住宅は、鈴木家が 3 代にわたり住み継いできた旧宅で、1928 年建築の鉄筋コンクリート造の「書斎棟」、1946 年建築の「茶の間・ホール棟」、明治 20 年代の建築で、1948 年に鈴木本家(現 埼玉県春日部市)より移築した書院造の「座敷棟」という、建築年代・構造の異なる 3 棟より構成されている。2010 年に鈴木信太郎氏の次男でフランス文学者の鈴木道彦氏より豊島区へ寄贈され、2012 年に区の有形文化財に指定された。

鈴木信太郎記念館では、こうした歴史的建造物である旧宅を公開するとともに、建築図面などの建築資料を展示。また、フランス文学に関する著作と蒐集(しゅうしゅう)資料を 5 つのコーナーに分けて紹介している。鈴木信太郎氏が蒐集した稀覯(きこう)本のほか、交流のあった谷崎潤一郎や大佛次郎からの謹呈本など、希少な書物を多く展示。書斎棟では、鈴木信太郎氏が自らデザインしたステンドグラス(5 枚)も見ることができる。

昨日午後 2 時より開催されたオープニングセレモニーでは、高野之夫豊島区長、木下広豊島区議会議長、鈴木道彦氏ほか約 30 名が出席し、テープカットが行われた。鈴木道彦氏は、「いよいよ開館ということで大変感慨深いです。1945 年の城北大空襲から本を守った書斎棟が特に見どころだと思います」と語った。

5 月以降、開館記念イベントとして、講演会や見学会も開催される。この機会にぜひご来館頂き、鈴木信太郎氏の功績に触れるとともに、歴史的な建築の魅力を味わってみてはいかがでしょうか。

日 時	開館時間：午前 9 時から午後 4 時半まで。※休館日…月曜日(祝日が重なる場合は翌日も)、第三日曜日、祝日、年末年始、展示替えによる臨時休館日あり。	
場 所	豊島区東池袋 5-52-3 (東京メトロ丸ノ内線新大塚駅より徒歩約 3 分) ※入館無料	
開館記念イベント	<p>① 講演会「鈴木信太郎先生とフランス文学」 日時：5 月 6 日(日) 午後 2 時から午後 3 時半 場所：南大塚地域文化創造館 講師：東京大学名誉教授 菅野昭正氏 定員：60 名 申し込み締切日：4 月 17 日必着</p> <p>② 見学会「旧鈴木家住宅建物解説・見学会」 日時：5 月 19 日(土) 午後 2 時から午後 3 時 場所：鈴木信太郎記念館 講師：協同組合伝統技法研究会 大平秀和氏 定員：15 名 申し込み締切日：5 月 1 日必着</p> <p>③ 講演会「マラルメの『大鴉』」 日時：6 月 2 日(土) 午後 2 時から 3 時半 場所：南大塚地域文化創造館 講師：放送大学名誉教授 柏倉康夫氏 定員：60 名 申し込み締切日：5 月 15 日必着</p> <p>※いずれも往復はがきにて、「〒170-0013 東池袋 5-52-3 鈴木信太郎記念館」へ。 ※はがき 1 枚につき、1 名 1 事業のみ。</p>	
写 真 *写真はメールで送ります	 <p>テープカットの様子</p>	 <p>書斎棟の展示風景</p>
問 合 せ	豊島区立鈴木信太郎記念館	



鈴木信太郎記念館 外観



書斎棟のステンドグラス

豊島区指定有形文化財「旧鈴木家住宅」について

概要

所在地 豊島区東池袋五丁目52番3号 *東京地下鉄丸ノ内線新大塚駅から徒歩2分

土地 宅地 595.04㎡

建物 延べ床面積296.46㎡(木造、一部鉄筋コンクリート造2階建て)

経緯

～平成22年3月 鈴木信太郎氏、成文氏(信太郎氏長男)の居宅として使用

平成22年3月 鈴木成文氏急逝

鈴木道彦氏(信太郎氏次男)より土地・建物の豊島区への寄贈申し出がある

平成22年11月 豊島区と鈴木道彦氏間で贈与契約締結

平成23年 3月 豊島区登録有形文化財(建造物)として告示

平成24年 3月 豊島区指定有形文化財(建造物)として告示

平成24年12月 旧鈴木家住宅内住宅関連文書整理開始<以降、平成24年度に書画骨董類整理、平成25年度に蔵書整理と建築関係資料整理を実施し、リスト化されている>

平成25年 3月 旧鈴木家住宅保存活用修理工事基本計画策定

平成25年12月 旧鈴木家住宅保存改修工事実施設計図書納品

平成26年 4月 旧鈴木家住宅内フランス文学関係資料調査開始

平成26年 5月 獨協大学図書館所蔵鈴木信太郎文庫調査開始

平成26年 6月 旧鈴木家住宅内建築関係資料調査開始

平成26年11月 「(仮称)鈴木信太郎記念館」展示基本設計図書納品

平成28年 2月 旧鈴木家住宅保存改修工事実施設計(改訂版)図書納品

平成28年10月 旧鈴木家住宅保存修理工事着手(予定)

平成28年12月 「(仮称)鈴木信太郎記念館」展示実施設計図書納品(予定)

平成29年 7月 旧鈴木家住宅保存修理工事竣工(予定)

平成29年10月 「(仮称)鈴木信太郎記念館」展示工事着手(予定)

平成30年春頃 鈴木信太郎記念館開館(予定)

特徴

旧鈴木家住宅は、日本のフランス文学研究黎明期に活躍したフランス文学者鈴木信太郎の住まいである。1928(昭和3)年建築の鉄筋コンクリート造の書斎棟、1946年建築の茶の間・ホール棟、明治20年代の建築で、1948年に埼玉県春日部市の鈴木本家から移築した書院造の座敷棟、という建築年代の異なる全3棟からなり、1920年以前に建造された大谷石造りの擁壁上の敷地に建っている。物件の所在地は、副都心池袋という都市化された地域の住宅街にあたり、その希少性が極めて高い歴史的建造物であることから、平成24年に豊島区の指定文化財になった。

鈴木信太郎は、フランス文学関係の稀覯本蒐集家(きこうほんしゅうしゅうか)としても知られ、かつてこれらは書斎棟の書棚に収蔵されていたが、現在その多くは獨協大学図書館に鈴木信太郎文庫として収められている。それでも現在書斎棟には11,000冊を超える書籍を収蔵しており、それらの中には18世紀にフランスで刊行された辞書類や、信太郎と交流のあった谷崎潤一郎や中原中也、大佛次郎といった日本の近現代文学界で活躍した文学者らからの謹呈本など多くの貴重な書籍が含まれている。

鈴木信太郎・成文(しげふみ)・道彦氏について

*鈴木信太郎(フランス文学者) 生誕:1895年6月3日 死没:1970年3月4日

【略歴】

1895(明治28)年 神田川の河口に近い神田佐久間町生まれ。

1916(大正5)年 東京帝国大学仏文学科へ入学。

1928(昭和3)年 現東池袋の邸内に鉄筋コンクリート造の書斎を構える。

★のちに1945年4月の空襲罹災に際し、蔵書の焼失を防ぐことになる。

1947年 東大教授(52歳)、1953年東大文学部長となる。

1956年 東大を定年退職し、中央大学文学部教授、東大名誉教授となる。

また、日本フランス語学会会長となり、翌年、日本フランス文学会会長となる。

1960年 フランス政府よりレジオンドヌール三等勲章を受ける。

1962年 新設の日本フランス語フランス文学会の会長に推される。

1967年 日本フランス語フランス文学会の会長を辞し、名誉会長に推される。

1969年 生存者叙勲を辞退(74歳)。

1970年3月4日 死去。本人の遺言により、没後受勲も辞退した。

【主な著書】

評論:『ステファヌ・マラルメ詩集考』上巻(1948/9)/下巻(1951/4) (1952年度、読売文学賞受賞)

翻訳:『ヴィヨン全詩集』(1965/5)、『悪の華』(1960)

全集:『鈴木信太郎全集』全5巻+補巻 (1972/2 - 1973/12)

*鈴木成文(建築学者) 生誕:1927年7月30日 死没:2010年3月7日

【略歴】

1950年 東京大学第一工学部建築学科卒業、55年同大学院(旧制)修了。

59年東京大学助教授(工学部)、74年同教授を経て、89年神戸芸術工科大学教授、98年から同大学長を務め、2002年退任。

【業績】

第二次世界大戦後、公営住宅の標準型「51C」の設計に研究室の一員として参加。「51C」はダイニングキッチン付公営住宅の原型となった。

1969年 日本建築学会賞(論文部門)/2001年 日本建築学会大賞

【主な著書】

『建築計画』(1975)、『住居論』(1987)ほか

*鈴木道彦(フランス文学者) 生誕:1929年4月26日

【略歴】

1953年東京大学文学部仏文学科卒業、同大学院進学、

一橋大学助教授、教授を経て、獨協大学教授。獨協大学名誉教授。

【業績】

ブルースト『失われた時を求めて』の完訳に取り組み、1992年に抄訳を刊行したところ評判を呼んだ。完訳は1996年から2001年に集英社から刊行されている。

井上究一郎に続く二つ目の個人完訳となり、2002年に読売文学賞受賞。

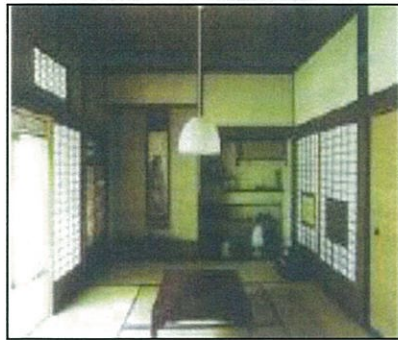
【主な著書】

評論:『ブルースト文芸評論』(1977年)ほか 翻訳:『失われた時を求めて』全13巻(1996-2001年)ほか

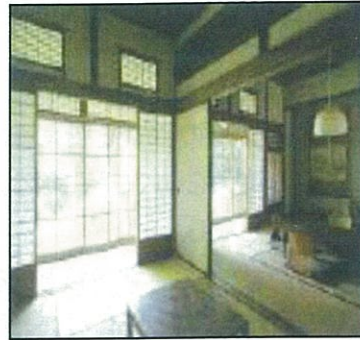


旧鈴木信太郎邸 (1階部分) 見取り図

座敷 (①~④)

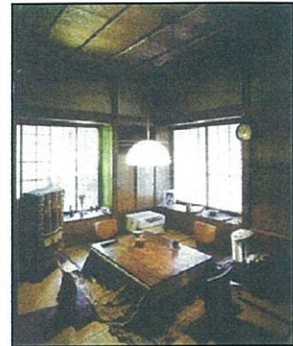


③【書院座敷】
(転載: 鈴木住宅パンフレット)

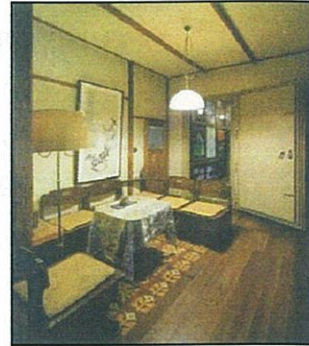


④【次の間】
(転載: 鈴木住宅パンフレット)

茶の間・ホール (⑤~⑦)



⑤【茶の間】
(転載: 鈴木住宅パンフレット)



⑥【ホール】
(転載: 鈴木住宅パンフレット)

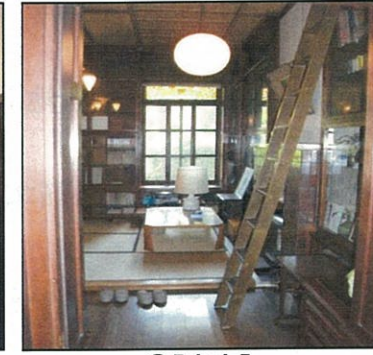


⑦【防火扉(書斎入口)】

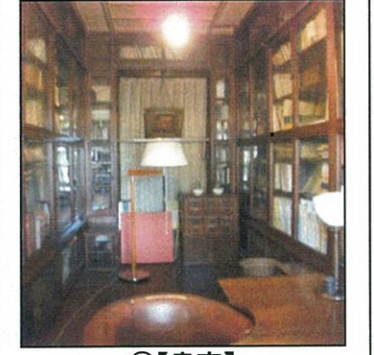
書斎 (⑧~⑬)



⑧【廊下】

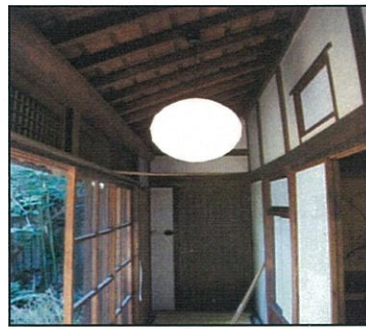


⑨【書斎】

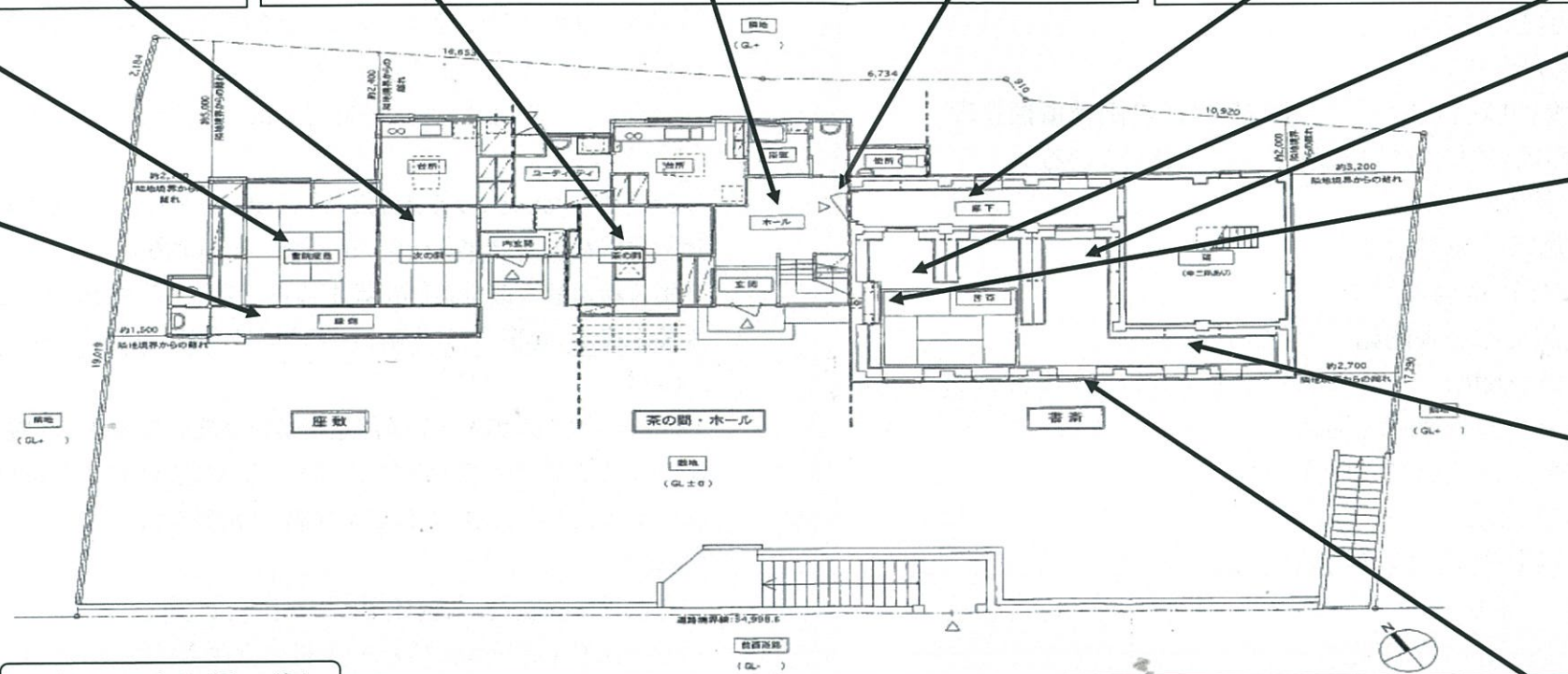


⑩【書斎】

②【縁側】



①【縁側からの眺め】



外観(入口側) (⑭~⑯)



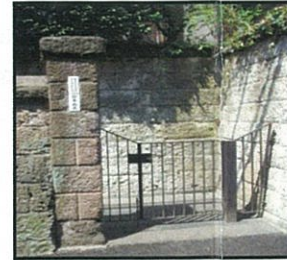
⑭【座敷】



⑮【茶の間・ホール(玄関)】



⑯【書斎】



⑰【道路側入り口・階段】



⑱【入口側道路(google マップ)】

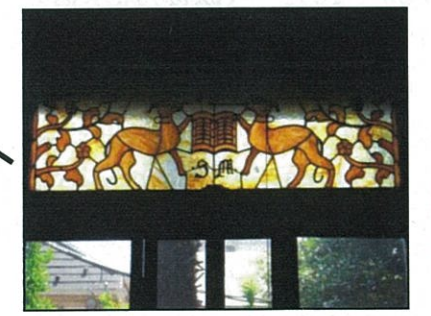
座敷: 明治 20 年代築、昭和 23 年移築
木造平屋建 切妻造 棧瓦葺 建築面積 57.2 m² (17.3 坪)
茶の間・ホール: 昭和 21 年築 木造平屋建 切妻造 棧瓦葺 建築面積 56.5 m² (17.1 坪)
書斎: 昭和 3 年築 1 階鉄筋コンクリート造 2 階鉄骨下地木造モルタル塗 銅板葺 建築面積 86.1 m² (26 坪)



⑪【書斎内暖炉】



⑫【窓側通路】



⑬【ステンドグラス・照明】

